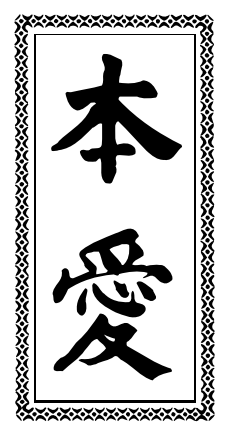


# 修養科生の丹精に新たな決意を

親里ちばで教えを学び、心の成人に励む修養科。3カ月の生活を通して信仰の喜びを体得したようぼくは数多い。陽気ぐらしの教えを広めるために、今後も募集が進められていくが、本愛ではこのほど、来年の募集月を4月、7月、10月の3回とすることが決定された。



来年の修養科募集は  
**4・7・10月期**  
の3回

発行  
天理教本愛大教会  
〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

明治41年春に開校した天理教校別科を前身として、昭和16年4月に始まった修養科は、今年で発足から80年目を迎える。その節目の年が新型コロナウイルスの感染拡大という大きな事情と重なり、本年5月と6月には初めて本部での受け入れが休止された。しかし5月下旬の緊急事態宣言解除に伴って今月から受け入れが再開され、現在は第949期

活動目標  
喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

生がおぢばでの修養に励んでいる。満17才以上なら性別や国籍、また信仰経験の有無を問わずに誰でも志願することができ、おぢばでは毎月1日に各期ごとの始業式が行われて3カ月の修養生活が始まる。本愛では、志願した修養科生全員が足並みを揃えて詰所での生活が送れるように、当初から入学月を3カ月に1度と定めて募集が進められてきた。また平成7年には少しでも志願しやすいようにと、入学時期が現行の1月、4月、7月、10月の4回に変更されて今日に至っている。しかし、昨今の志願状況と、詰所での修養生活の現

状などを総合的に勘案した結果、来年は募集月（入学月）を4月、7月、10月の3回に絞って募集と丹精が進められることになった。志願の申し込みは従来通り、前月20日が締め切りで、志願者面接は前月25日の午後1時から詰所で行われる。6代会長就任奉告祭が執行される来年は、特に道の後継者育成に精魂を傾けるべき旬である。そして今、本愛ようぼくが活動目標に沿って地道に続けている「おたすけの日々」が、道の将来を担う人材育成へとつながり、そこから修養科志願者が増え、ていくように細やかな丹精が求められる。いよいよ迎える「喜びの旬」に、陽気ぐらしを標榜する人材が育成されていくよう強く念じつつ、楽しみを持って修養科生の募集と丹精に励む決意を新たにしたい。

入社祭	7月のこよみ
1日 午前10時	教会長連絡会は中止
よふき会例会	
2日 午前10時	
女子青年例会	
4日 午前9時50分	
月次祭	
13日 午前10時	
布教実修所	
14日 午前10時	
むつみ会例会	
16日 午前10時	
こはる会例会	
18日 午前10時	
婦人会例会	
20日 午前10時	
雅楽勉強会	
20日 午前10時	
本部月次祭	
26日 午前9時	

7月より

## ほぼ従来通りの態勢へ

## 大教会長が今後の方針を示す

大教会の6月月次祭は13日、大教会長祭主のもと、神殿にて執り行われた。座りづとめと十二下りのてをどりに続いて、大教会長が挨拶に立ち、今後の大教会の祭典などについて、運営方法と取り組みの方針を述べた。



大教会長は冒頭、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的としたこれまでの緊急の措置について、「今後また感染が拡大するようなことがあれば、緊急の措

置を講ずることがある」としたうえで、「基本的に7月1日より従来の方に戻したいと思う」と述べた。月次祭と入社祭の祭典については、結界を神殿後方に設置したうえで勤めるとし、神殿講話は7月月次祭から、おたすけ講話は8月入社祭から再開。また、一般参拝者にも神殿内で参拝してもらえようにする一方で「感染の可能性には十分注意し、発熱はじめ体調不良を感じる場合は、奉仕者・一般参拝者を問わず参

拝をご遠慮いただきたい」と呼びかけた。

また、神殿奉仕当番については、7月1日より全ての役員と詰員で緊急措置以前と同様にとめるものとし、神殿事務所、炊事の各当番も従来通りの形でつとめるよう求めた。

一方、各教会における月次祭・入社祭については、大教会に準じて、原則として従来の方に戻して勤めることとしつつ、「各教会長は、参拝者の年齢や環境を考え、安全に十分に配慮した形で勤めていただきますよう」と要望した。また、大教会からの巡教は10月の秋季大祭から再開するとした。

## いまこそ温かい声掛けを

大教会長は現在お見せいただく状況について、世界で大勢の方が感染し、命を落としたことに加えて、国内でも経済的に困窮してい

る人も少なくないとして、「多くの教会の信者さん方も、大きな影響を受けて大変な苦しみの中で対応を模索されている最中だと思う」と述べたうえで、「そうした中で、周囲に感染を広げないように配慮するという意味でマスクを着用する人も増えるなど、さまざまな形で慎みの心遣いやたすけ合いが広がっているように感じる」として、リモートワークによって在宅勤務が進展したことや、大気汚染が減少したこと、自然の豊かさ、美しさをあらためて感じる機会になったことなど、「コロナはデメリツトばかりではなかったように思う」と語った。

そして、どんな人にも温かい言葉をかけられた教祖について述べた宮森与一郎・内統領の談話を引用した上で、「今はなかなか人と会うことができないけれども、インターネットや

ソーシャルメディアなどの力を活用して、優しい言葉はいつでもかけ合うことができる。こうした状況だからこそ、そうした丹精が大切」と話した。

## 先人の心映え忘れず

また、100年前に猛威を奮った「スペイン風邪」の流行下でも、教祖40年祭を目指して展開された教勢倍化運動によって、当時宣教師から支教会へと昇格した本愛を含め、教勢は大きく進展を遂げたことを振り返り、「当時とは世相も布教の方法も異なるが、この当時の先人の心映えというものを、私は忘れてはならないと思う」と述べた。

最後に、来年3月に控えた6代会長の就任に触れ、「残り9カ月、勇んでつとめさせていただきますのでどうか皆様方にもお力添えをいただきたい」と呼びかけ講話を結んだ。

教理随想

言わん言えんの理を探る



このたびのコロナ禍で、親神様からのメッセー

示してください。そのおかげで私たちは今回、思召の一端を思案すること

頭の、よろつよのせかい一れつみはらせど、むねのハカリたものハないから

する頃、不思議なたすけによつて導かれた近在の人々がお屋敷へ参詣するように

終わっています。一番最後に近い部分のおうたに、いま、でのよふなる事は

います。それに伴い法律や社会のシステムも変化せざるを得ない状況が続いていく

【第 67 回】

おふでさきを信仰の規範にたすけあいの心を広める時

ところで、教祖がおふでさきの執筆にかかられたのは、明治二年の正月です。冒

通られました。時代が明治に変わろうと

おふでさきの執筆は、明治十五年に千七百十一首で

親とおふでさきとの関係、おふでさきのお心もこれと同じで、これを「成人の道」と教えら

喜びを再認識し、常におふでさきのお言葉を規範として、世界中の人々がたすけあいの心を実践して

活様式が定着しようとして

3月のおさづけの理拝戴者

本心 (本蟹江) 長田みどり  
 本濱松 相場 晃  
 " 板山真依子  
 本一心 大倉 和真  
 以上4名

3月の初席者

直轄 久富木 圭  
 本定 星野 敦  
 " 海野 朱里  
 本中村 (本豊國) 神谷 和幸  
 以上4名

本修行分教会二代会長

石川利郎之霊の一年祭

本向島分教会三代会長

石川幸子之霊の一年祭

本修行分教会では5月30

日午前11時より、二代会長・

石川利郎之霊の一年祭、本

向島分教会三代会長・石川

幸子之霊の一年祭が、石川

文彦役員を祭主として同分

教会で行われた。



# 本愛大教会 公式ホームページ開設!



<https://hon-ai.org>

大教会からのお知らせ  
 沿革、大教会へのアクセス  
 本愛誌バックナンバーのダウンロード

## 陽気ぐらしのキーワード



# 感謝 慎み たすけあい



### 大教会日誌

令和2年5月25日～令和2年6月24日

#### 5月

26日 本部月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、和光重男

指図方・出口道男 賛者・津田豊郎、安井 篤

◇大教会長挨拶

#### 6月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・吉田正信、加藤成幸

指図方・出口道男 賛者・塚原光男、中島裕信

2日 よぶき会例会

12日 常任役員会議

14日 布教実修所入所式 (入所者 32人)

16日 むつみ会例会

17日 こども食堂MOGU (配布 35人)

20日 婦人会例会